



The Navigators

誇りはあるか。
愛はあるか。



ナビゲーター
ある鉄道員の物語

ケン・ローチ監督作品

国鉄民営化で過酷な選択を強いられる鉄道労働者たちの心の揺れを描いた衝撃作。

第58回ベネチア国際映画祭コンペティション部門正式招待作品

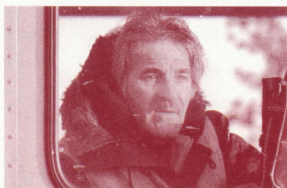
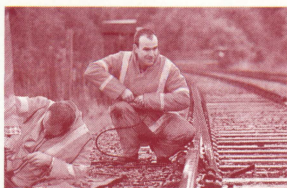
監督：ケン・ローチ 出演：ジョー・ダットン/トム・クレイク/ウエストレイシー/スティヴ・ハイソ
2001年/イギリス/ドイツ/スペイン/96分/カラー/1:1.85/ドルビー・デジタル 配給：シネカノン

リストラが人生を変えていく

⇒93年、英国鉄道民営化法が制定され、誇り高き“鉄道員”たちは“会社員”として働く事になりました。それは昨日まで一緒に働いていた仲間が明日からはライバル会社で数字を競い合い、同じ会社でも現場と管理する側の立場に分かれ、そして何よりも多くの鉄道員たちがリストラによって仕事を失うという事を意味していました。⇒95年、南ヨークシャー。失業の危機に怯えながら過酷な選択を強いられた男たちは、非力ながら会社に立ち向かい、友情を見つめ、そして家族の絆を確かめ合います。

胸に突き刺さる衝撃のラストシーン

⇒本作は実際に鉄道関係の仕事をしていた脚本家が自らの体験を物語にしたものです。ともすれば悲惨で暗くなってしまいう話を、ローチ監督は独特のユーモア感覚で労働者たちの滑稽なやりとりを全編にちりばめ、全体を快活な笑いで包み込みました。そしてその皮肉を込めた笑いは、政府に対する痛烈な批判でもあります。⇒観客は経営者の机上の理論によってもたらされる不条理な不幸を、笑いながら実感する事になるのです。そして笑いの後に訪れるその衝撃的なラストシーンには誰もが言葉を失い、あらためて「人間とは？」と自らに問かける事でしょう。⇒しかしそれは遠いイギリスだけの話ではありません。国労の問題がいまだに解決されず、郵政民営化が取り沙汰され、多くの会社が大規模なリストラを断行している、正に今の日本の社会が直面している大きな問題でもあるのです。



仕事に誇りを持ってますか。
家族の愛を感じてますか。

【ロブ・ドーバー：鉄道員そして脚本家】

ロブ・ドーバーは、ヨークシャー州シェフィールドで英国鉄道の通信員として18年間働いた。1997年までは組合代表として民営化を支持したが、様々な場面で安全性と過酷な労働条件について指摘していたにもかかわらず、新しい経営陣はそれを改善しようとしなかった。そしてこれらの経験をもとに本作の脚本を完成させる。しかし2001年2月20日に、彼が指摘し続けていたアスベストに起因する胸膜中皮腫によってその生涯を閉じた。

その後イギリスでは映画の内容をなぞるかのよう鉄道事故が多発し、今や世論は民営化は間違っていたという意見が多数を占め、政府の政策見直しも始まっている。

ケン・ローチ 監督最新作

ナビゲーター

ある鉄道員の物語

12/7(土)よりモーニングショー!!

(12/20(金)まで)

連日 朝10:00より1回上映 (終11:40)

ケン・ローチ監督作品 「ブレッド&ローズ」「ナビゲーター ある鉄道員の物語」

特別共通鑑賞券 ¥1400 好評発売中!

(「ブレッド&ローズ」は当日一般1800円、「ナビゲーター」は当日一般1700円)

●1枚で上記2作品のうちいずれか1作品ご購入いただけます

梅田スカイビル(空中庭園)
タワーイースト4F
06-6440-5977
www.cineplex.co.jp



梅田ガーデンシネマ